

2018年（平成30年）

12月7日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

■ 概況

11/22～11/28のNYMEX・WTIは、50.29～51.63ドルの範囲で一段と軟化して推移した。

11月29日は、前日EIA週報の原油在庫積み増し報告やサウジ・ファリハ・エネルギー相の単独減産拒否発言で一時50ドル割れしたが、プーチン大統領のOPECとの協調姿勢の発言による買戻しで3日ぶりに反発した。1月限終値は前日比1.16ドル高の51.45ドル。

週末30日は、ドル高の進行による割高感、ロシア等産油国からの現行の原油価格水準で満足である旨の報道があり、反落した。なお、21日発表のベーカー・ヒューズ社の米国内石油掘削リグ稼働数は887基（前週比2基増）と増加した。1月限終値は前営業日比0.52ドル安の50.93ドル。

週明け12月3日は、同日の米中首脳協議で対中制裁関税発動の90日凍結が合意され、経済リスクの改善が好感されたこと、また、カナダ・アルバータ州が在庫増加対策として来年の産油量を8.7%（日量32.5万バレル）減産することを発表したことから、反発した。1月限終値は前週末比2.02ドル高の52.95ドル。

4日は、6日のOPEC総会・7日の産油国合同会議を前に、日量130万バレル減産合意の観測が出る一方、サウジのファリハ・エネルギー相が減産合意に関する議論は時期尚早と発言するなど情報が錯綜する中、続伸した。1月限終値は前日比0.30ドル安の53.25ドル。

5日は、産油国による減産合意観測の高まりから、買いが先行したものの、ドル高の進行、ポジション調整や利益確定の売りで、3営業日ぶりに反落した。EIA米国在庫週報は翌6

日の発表となった。1月限終値は前日比0.36ドル安の52.89ドル。

アジアの指標原油である中東産バイ原油/東京市場（1月渡し）は、前週59.10～62.70ドルの範囲で推移した。11月29日58.40ドル、30日59.50ドル、12月3日61.20ドル、4日61.30ドル、5日60.10ドルで推移した。

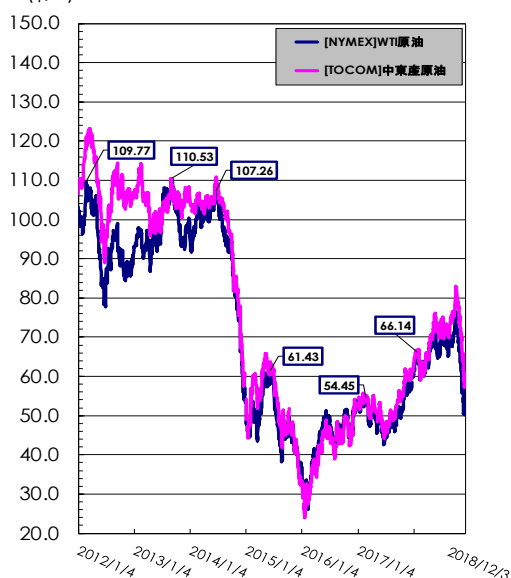
為替は、前週113.04～113.79円の範囲で推移した。11月29日113.64円、30日113.47円、12月3日113.64円、4日113.61円、5日112.88円で推移した。

主要元売会社の12月第1週に適用する卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに全社3.0円の値下げとなった。原油価格は大きく値下がりし、為替レートやや円安で値下がり一部相殺したが、原油調達コストは値下がりとなった。

そのような中で、12月3日時点の小売価格は、ガソリンが前週比2.6円の値下がり、軽油も同2.3円の値下がり、灯油も同31円の値下がり（18㍻ベース）だった。ガソリン、軽油、灯油ともに、6週連続の値下がりだった。この週（11月第4週）の原油コストは大きく値下がりし、元売の卸価格はガソリンが3.0～4.5円の値下げ、軽油は全社3.0円、灯油は3.0～3.5円の値下げに分かれた。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	11/25 ~ 12/1	3,683 ▲ 34	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	94.1 ▲ 0.9	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	12/1	13,135 ▲ 188	▼ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	12/3	60.77 ▲ 2.24	▲ 0.2
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	12/3	52.95 ▲ 1.32	▼ -4.5
	原油CIF単価 (\$/bbl)	11月上旬	81.70 ▲ 2.11	▲ 23.94
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	57,737 ▲ 1,448	▲ 16,487
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	112.34 ▲ 0.11	▲ 1.19
	外国為替TTSレート (¥/\$)	12/3	114.64 ▼ -0.60	▼ -0.87

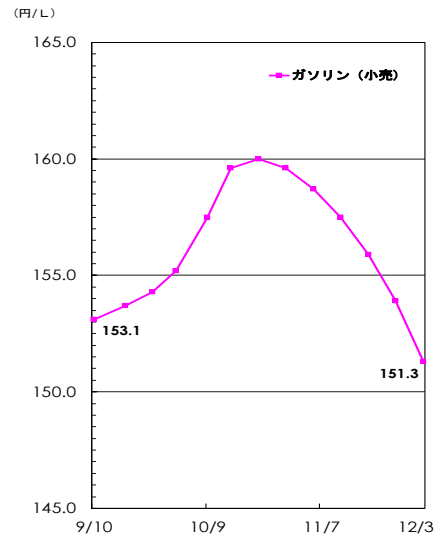
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	11/25 ~ 12/1	984 ▲ 6	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	901 ▼ -43	▼ -
	輸出	"	120 ▲ 50	▲ -
	在庫	12/1	1,758 ▼ -36	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/27 ~ 12/3	60.3 ▼ -2.7	▲ 1.5
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	11/27 ~ 12/3	52.9 ▼ -2.1	▼ -4.9
	(TOCOM/中部)	12/3	62.0 ➡ 0.0	▲ 4.2
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/3	151.3 ▼ -2.6	▲ 9.9

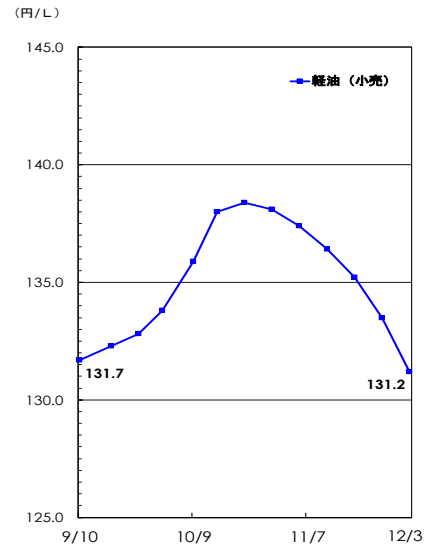
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

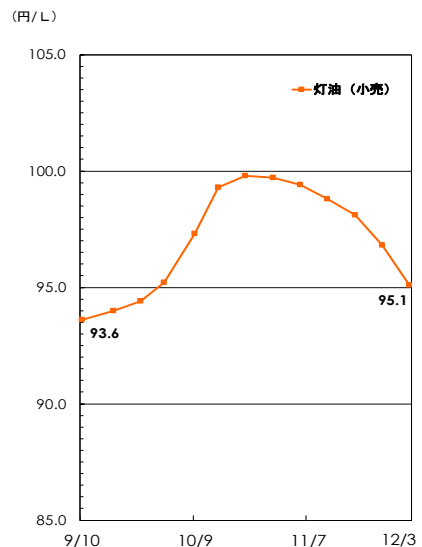
軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	11/25 ~ 12/1	863 ▲ 74	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	702 ▲ 145	▼ -
	輸出	"	141 ▲ 82	▼ -
	在庫	12/1	1,764 ▲ 20	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/27 ~ 12/3	63.6 ▼ -2.8	▲ 5.0
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	11/27 ~ 12/3	62.7 ▼ -3.9	▲ 4.7
	(TOCOM/中部)	12/3	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/3	131.2 ▼ -2.3	▲ 11.9

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	11/25 ~ 12/1	257 ▼ -87	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	265 ▼ -31	▼ -
	輸出	"	51 ▲ 26	▲ -
	在庫	12/1	2,822 ▼ -59	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/27 ~ 12/3	62.1 ▼ -3.0	▲ 1.2
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	11/27 ~ 12/3	59.5 ▼ -3.0	▲ 0.4
	(TOCOM/中部)	12/3	61.2 ▼ -3.8	▲ 0.9
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/3	95.1 ▼ -1.7	▲ 11.3



■ 関連情報

1 海外/原油

12月5日のNYMEX市場WTI原油は、翌6日のOPEC総会・7日の主要産油国合同会合を前に、減産合意の観測の高まりから、朝方買いが先行したものの、為替市場におけるドル高・ユーロ安の進行による原油先物の割高感、また、減産合意の内容の不透明感から売られ、ポジション調整や利益確定の売りもあって、3営業日ぶりに反落した。米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報は、故ブッシュ第41代大統領(父)の国葬のため1日遅れの発表となった。市場観測では、原油在庫は11週ぶりの取り崩しの見通しである。1月限終値は前日比0.36ドル安の52.89ドル、2月限の終値は前

日比0.34ドル安の53.12ドルだった。

EIAによると、12月3日時点のガソリンの小売価格は、前週比8.8セント値下がりの1ガロン2.451ドル(74.1円/ℓ)、ディーゼルは前週比5.4セント値下がりの3.207ドル(97.0円/ℓ)となった。ガソリンは8週連続の値下がり、ディーゼルは7週連続の値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、平成30年11月25日～12月1日に休止したトッパ能力は0.0万バレル/日で、前週に対して9.0万バレル/日減少した(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は368.3万klと、前週に比べ3.4万kl増加。前年に対しては6.4万klの減少。トッパ稼働率は94.1%と前週に対して0.9ポイントの増加、前年に対しては1.6ポイントの減少となった。

生産は前週に比べて灯油、C重油が減産となり、その他の油種で増産となった。

ガソリン/0.6%増、ジェット/40.4%増、灯油/25.3%減、軽油/9.4%増、A重油/29.2%増、C重油/0.5%減。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比2.7万kl減)。軽油の輸出は14.1万kl(前週比8.2万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではガソリン、灯油が減少となり、その他の油種で増加となった。前年比では全て油種で減少となった。

ガソリンの出荷は90.1万 kl(対前週4.6%減)と前週比で4週振りで減少となり、13週連続で100万klを下回った。ジェッ

ト8.7万kl(対前週34.3%増)、灯油26.5万kl(対前週10.4%減)、軽油70.2万kl(対前週26.0%増)、A重油23.5万kl(対前週49.8%増)、C重油20.8万kl(対前週17.4%増)。

(単位: 千KL)

	今週 (11/25 ~ 12/1)	前週 (11/18 ~ 11/24)	前週比
ガソリン	901	944	▼ -43 (-5%)
ジェット燃料	87	65	▲ 22 (34%)
灯油	265	296	▼ -31 (-10%)
軽油	702	557	▲ 145 (26%)
A重油	235	157	▲ 78 (50%)
C重油	208	178	▲ 30 (17%)
合 計	2,398	2,197	▲ 201 (9%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

12月1日時点の在庫は、ガソリン、灯油、C重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはC重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは175.8万kl、前週差3.6万kl減。前年に対しては8.8万kl多い。

灯油は282.2万kl、前週差5.9万kl減。前年に対しては26.8万kl多い。

軽油は176.4万kl、前週差2.0万kl増。前年に対しては38.8万kl多い。

A重油は87.7万kl、前週差1.1万kl増。前年に対しては21.9万kl多い。

C重油は198.4万kl、前週差11.5万kl減。前年に対しては11.1万kl少ない。

(単位: 千KL)

	今週 (12/1)	前週 (11/24)	前週比
ガソリン	1,758	1,794	▼ -36 (-2%)
ジェット燃料	1,048	1,044	▲ 4 (0%)
灯油	2,822	2,881	▼ -59 (-2%)
軽油	1,764	1,744	▲ 20 (1%)
A重油	877	866	▲ 11 (1%)
C重油	1,984	2,099	▼ -115 (-5%)
合 計	10,253	10,428	▼ -175 (-1.7%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

11月27日から12月3日の原油価格は、引き続き、前週対比で大きく値下がりし、為替レートはやや円安でこれを一部相殺したが、原油コストは大きく値下がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、同期間で、ガソリン112～116円台で大きく値下がり、軽油62～65円台で大きく値下がり、灯油61～64円台で大きく値下がりして推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン113～114円台

で値上がり後大きく値下がり、軽油63～64円台で値上がり後横ばい、灯油57～59円台で値上がり後大きく値下がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン105～107円台で出入り後大きく値上がり、軽油62～63円台で値上がり、灯油58～60円台で出入り後値上がりして推移した。

元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油とも、1.5～2.0円の値下げに分かれた。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、前週に続き、全油種・全取引で大きく値下がりした。

12月第2週(12月6日～12月12日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(11月27日～12月3日千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは2.7円の値下がり、灯油も3.0円の値下がり、軽油も2.8円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが2.5円の値下がり、灯油も2.7円の値下がり、軽油は2.5円の値下がりだった。

先物価格は、ガソリンが2.1円の値下がり、灯油も3.0円の値下がり、軽油も3.9円の値下がりだった。

原油価格は大きく値下がりし、為替の円安がこれを一部相殺したが、原油コストは大きく値下がりした。

12月第2週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに1.5～2.0円の値下げとなった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/ℓ)		
ス ポ ッ ト 価 格	[陸上ローリー 4地区平均]	今週 (11/27 ~ 12/3)	前週 (11/20 ~ 11/26)	前週比
	レギュラー	60.3	63.0	▼ -2.7
	灯油	62.1	65.1	▼ -3.0
	軽油	63.6	66.4	▼ -2.8

(TOCOM)		(単位: 円/ℓ)		
先 物 価 格	[期近物/終値] [平均]	今週 (11/27 ~ 12/3)	前週 (11/20 ~ 11/26)	前週比
	レギュラー	52.9	55.0	▼ -2.1
	灯油	59.5	62.5	▼ -3.0
	軽油	62.7	66.6	▼ -3.9

※上記価格は税抜き価格

参考値 (11/27～12/3実績値)		(単位: 円/ℓ)		
油種	現物	先物	平均	
ガソリン	▼ -2.7	▼ -2.1	▼ -2.4	
灯油	▼ -3.0	▼ -3.0	▼ -3.0	
軽油	▼ -2.8	▼ -3.9	▼ -3.3	
A重油	▼ -3.0			

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

12月3日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比2.6円安の151.3円、軽油も同2.3円安の131.2円、灯油は同1.7円安の95.1円(18ℓベースでは31円安の1,712円)だった。ガソリン・軽油・灯油ともに6週連続の値下がりだった。先週に続き、都道府県別に、ガソリンの値上がりはなし、横ばいもなし、値下がり47都道府県全てだった。全国最安値は愛知県の145.2円(前週比3.2円安)、次が146.7円の埼玉県(同2.9円安)、最高値は長崎県の165.1円(同1.2円安)であった。値上がりした県はなく、横ばいの県もなく、最も値下がりしたのは5.1円安の愛媛県(153.8円)だった。

先週の原油コストは大きく値下がりし、元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、1.5～2.0円の値下げに分かれた。今週は、原油価格が大きく値下がりし、為替レートはやや円安で値下がり一部相殺したが、原油コストは大きく値下がりした。次週(12月10日)のガソリン・灯油の小売価格は、値下がり予想される。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/ℓ)				
小 売 価 格		今週 (12/3)	前週 (11/26)	前週比	直近高値	
	レギュラー	151.3	153.9	▼ -2.6	08/8/4	185.1
	灯油	95.1	96.8	▼ -1.7	08/8/11	132.1
	軽油	131.2	133.5	▼ -2.3	08/8/4	167.4

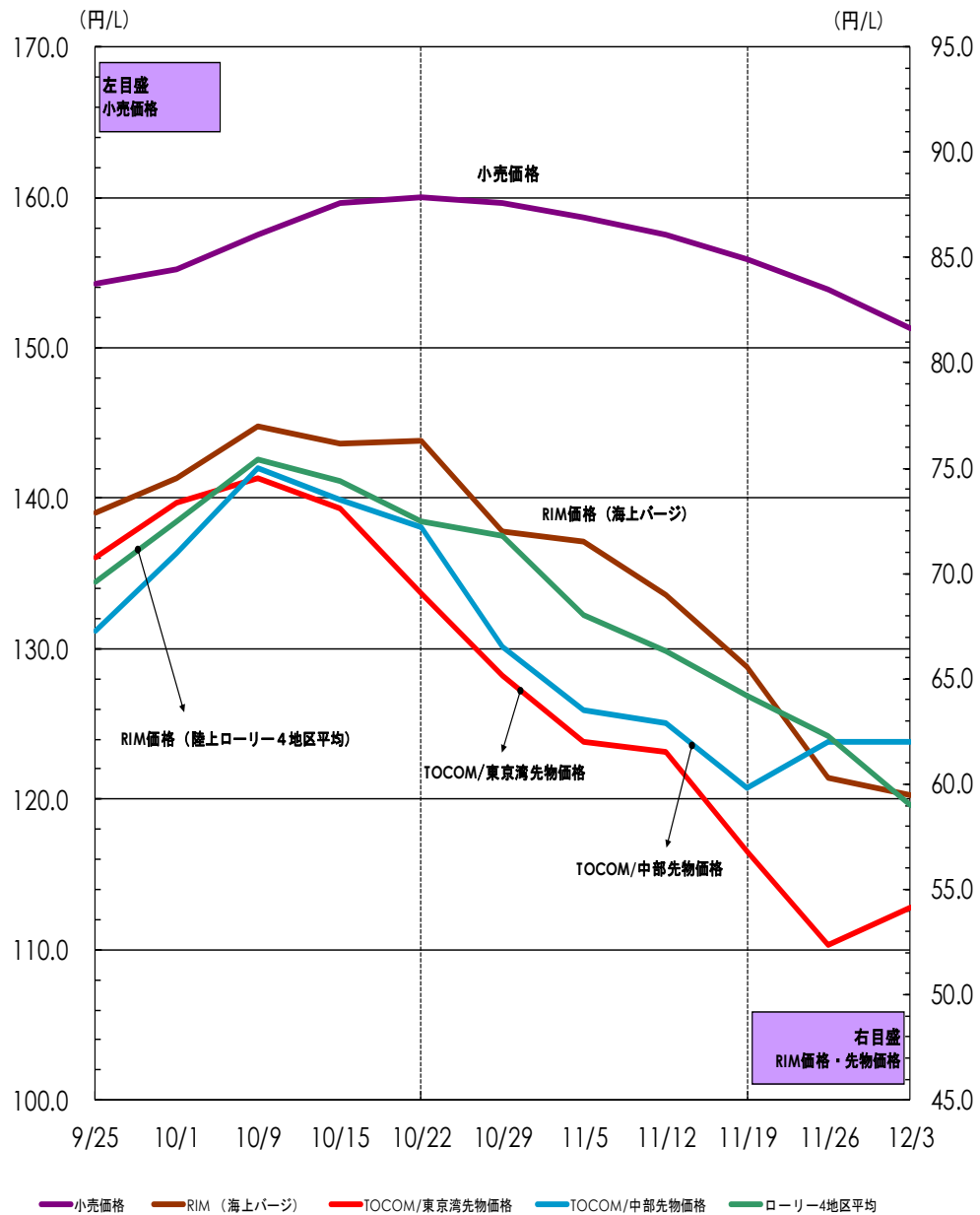
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

[2018/9/25 ~ 2018/12/3]



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2018第35号)の公表は、12/14(金) 14:00 です。

「セルフSS出店状況」(平成30年3月末現在)は、7月31日(火) 14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。